

平成 24 年第 9 回

# 札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成24年第9回教育委員会会議

1 日 時 平成24年5月25日（金） 13時30分～14時03分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

委員長	山 中 善 夫
委員	臼 井 博
委員	設 楽 雅 代
委員	西 村 真 理
委員	北 原 敬 文
教育次長	町 田 隆 敏
生涯学習部長	梅 津 康 弘
学校教育部長	金 山 正 彦
教育推進課長	井 口 誠 一
学事係長	村 田 行 信
学事係員	滝 田 真 吾
学びの支援係長	藤 木 晃 一
指導担当部長	池 上 修 次
指導担当課長	森 岡 毅
指導担当係長	山 田 浩 富
特別支援教育指導担当係長	田 中 進 一
教育研修担当部長	大 友 裕 之
総務課長	長谷川 雅 英
庶務係長	宮 地 宏 明
書 記	藤 間 雅 尚

4 傍聴者 5名

5 議 題

議案第1号 市立豊明高等養護学校の教育内容について

報告第1号 災害救済金給付金請求事件に係る訴状について

**【開 会】**

○山中委員長 それでは、平成24年第9回教育委員会会議を開会いたします。  
会議録の署名は、臼井委員と西村委員をお願いいたします。

本日の報告第1号は、訴訟に関する事項でございますので、教育委員会会議規則第14条第5号の規定によって公開しないこととしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中委員長 それでは、本日の報告第1号につきましては、公開しないことといたします。

## 【議 事】

### ◎議案第1号 市立豊明高等養護学校の教育内容について

○山中委員長 議案第1号について事務局からご説明をお願いします。

○学校教育部長 学校教育部長の金山でございます。

議案第1号 市立豊明高等養護学校の教育内容についてご説明いたします。

具体的には、同校の教育内容を見直し、平成25年4月から、流通・サービス科を設置したいということでございます。

ここでまず、3枚目の資料1をごらんいただきたいと思います。

これは、豊明高等養護学校卒業生の進路動向であります。

表の下から4段目に網かけ部分がありますが、これは、卒業生全体に占める一般就労した生徒の割合でございます。

まず、同校において初めて卒業生を出した昭和54年から平成19年までを集計した数値がございしますが、一番下段の1,082名の卒業生総数のうち、一般就労した生徒が、下から5段目の小計にありますように544名となっております。これは、ほぼ30年近くの累計でありますので、その年度、年度で増減はございますが、卒業生の半数近くの50.3%が一般就労につながっていたということでございます。これが、平成20年以降、近年では2割程度の状況となっており、景気の低迷などの社会情勢も相まって、卒業生の一般就労が非常に厳しい状況が続いてございます。

次に、この一般就労の内訳でございますが、表の上段、クリーニングから始まる5段目までが、現在、豊明高等養護学校に設置している学科でございますけれども、その教育内容と直接関係する職種に就労した生徒は、近年ではクリーニングの1名しかおりません。

その一方で、表の中段、網かけ部分にありますように、流通は引っ越しや配送などの業務を行っております、その下に、サービスは、主にビル清掃などの業務を行っております。そして、スーパーは、主に商店の物品管理、いわゆるバックヤードと呼ばれる倉庫などでの作業が主であります。このように、豊明高等養護学校の既設学科とは直接関係しない職種、まとめますと流通・サービス系の職種への就労が見られております。

ここで、その前のページの別紙を見ていただきたいと思います。

「1.見直しの必要性」についてでございますが、まず1点目として、ただいま、ご説明いたしましたように、卒業生の一般就労率の低迷や設置学科と就労職種が乖離している現状がございします。

2点目として、昨今の入学者には、知的な発達の遅れだけではなく、自閉症など、いわゆる発達障がいをあわせ持つ生徒も増えており、このような障がい

の多様化にも対応していく必要がございます。

3点目として、高等養護学校へ進学した生徒の保護者を対象に実施しておりますアンケート調査においても、今後の高等養護学校の教育に期待するものとして、卒業後の就労に向けた教育の充実や、個々の生徒のニーズに応じた教育内容の充実といったものが要望として上げられております。

次に、「2.見直しに向けたこれまでの取り組み」についてであります。これまで、市教委の委託研究による学校での教育内容の見直しや、学校関係者を交えての学科見直しの検討を進めるとともに、先進校の視察や全国の高等養護学校の学科の設置状況等について調査を行ってまいりました。

ここで、資料2をごらんいただきたいと思います。

A4横判になっておりますが、これは全国の高等養護学校に設置されている学科の状況をまとめたものでございますが、網かけの学校が流通・サービス系の学科を設置している学校でございます。

北海道におきましても、平成21年度に開校した道立の小樽高等支援学校や、同じく平成23年度に開校した稲穂高等支援学校には、いずれも環境・流通サポート科という名称で、流通・サービスに関する学科が設置されております。

それでは、先ほどの別紙にお戻りいただきたいと思います。「3.見直しの具体的な方針」についてでありますけれども、これまでご説明いたしましたように、豊明高等養護学校の教育内容を見直し、次のようにしたいと考えております。

まず、卒業生の一般就労の促進を図るため、平成25年4月に、流通・サービス科を新設することとしたいと考えております。

なお、学科名につきましては、道教委への正式な認可申請前でありますので仮称としておりますが、具体的な教育内容といたしましては、資料の大括弧内にありますように、事務・物流に関する内容や清掃等、それから環境保全に関する内容を想定しております。

次に、流通・サービス科の設置についてであります。生徒の多様なニーズにこたえるという観点から、既設5学科は廃止せず、産業科3間口のうちの1間口の転科による開設としたいと考えております。これにより、学科が5学科から6学科となります。

資料3をごらんいただきたいと思います。

1は、先進他校の状況でございます。

これは、全国的にも就労率の高い学校の一例として、東京都立永福学園と横浜市立二つ橋高等特別支援学校の平成22年度の卒業生の動向を載せております。

永福学園では、卒業生85名のうち88%の75名が、二つ橋高等支援学校では、同48名のうち96%の46名が、一般企業に就労しております。首都圏の場合、特

例子会社と言いまして、障がい者の雇用に特別の配慮をした子会社を持つ企業が多くございまして、単純に道内の就労状況と比較することはできませんけれども、両校においても、物流業務に関するロジスティクスや、サービス関連であるビルクリーニングなど、流通・サービス系の職種への就労が、網かけ部分であります、半数以上となっております。

また、先ほど、資料1でも見ていただきましたように、豊明高等養護学校においても、卒業生の最近の就労先の職種が、同様に流通・サービス系の職種となっております。

このように、既に他の高等養護学校の学科としても就労実績があり、今後、豊明高等養護学校においても、卒業後の就労につながる可能性が比較的高いと思われること、また、豊明高等養護学校では、平成21年度にクリーニング科において、臨時に1間口増を行っておりますが、その際に、ビルクリーニングに関する教育内容を一部取り入れながら、これまで実践してきた実績もあり、現在の学校体制を生かした開設が可能と考えられること、これらのことをかんがみまして、今回、開設する学科を流通・サービス科としたいと考えたところがございます。

なお、今後につきましても、他の学科も含め豊明高等養護学校の教育内容の見直しにつきましては、引き続き検討してまいりたいと考えております。

次に、そのページの下の2.平成24年度現在の豊明高等養護学校に設置している学科の間口数をごらんください。

こちらの表にございますように、産業科の3間口24人以外は、どの学科も各学年1間口8人の定員となっております。したがいまして、生徒の多様なニーズへの対応を図るといった観点から、現時点で学科の数は減らすことなく開設が可能であること、また、現在の産業科の教育内容を流通・サービス科の教育内容へ見直すこと、例えば、印刷の内容を流通・サービスに取り入れることなども可能であることから、産業科1間口の転科による開設としたいと考えるところでございます。

なお、今回の流通・サービス科につきましては、平成25年4月の入学生からを対象としたいと考えており、近々、来年度の特別支援学校の学科や募集定員を定める配置計画案が、北海道教育委員会から公表されることとなっております。この配置計画案の公表では、市立の豊明高等養護についても、学科や募集定員が示されることとなりますので、それまでには、市教育委員会として、新学科開設の方針を決定する必要がございますことから、本日、委員の皆様には本議案についてお諮りしているところでございます。

説明は以上でございます。

ご審議のほどを、よろしくお願いいたします。

○山中委員長 ありがとうございます。

それでは、各委員から、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

○設楽委員 発達障がいの方が少し多くなっているというお話ですね。それと、就労率が低くなっているということは、直接的な関係があるのですか。

○学校教育部長 直接は関係ないと思われます。

○山中委員長 ほかにいかがですか。

○臼井委員 資料3を見ると、産業科の中では、印刷、紙工、窯業の三つの作業班でやっているとあるのですけれども、この間口の一つを今度の流通・サービス科ということは、このうちのどれかをとるということではないのですか。

○学校教育部長 2間口にして、その中で3班で行うということになります。

○臼井委員 このうちの3つのどれかを削るわけではなく、3間口を2間口にしてということですね。わかりました。

○山中委員長 ほかにいかがですか。

○設楽委員 参考までに伺いたいのですが、就労して、ずっと勤めておられるのでしょうか。その後はどうですか。最近は、高校とか専門学校とかを出ても、余り長い期間勤めていないということが発表されていましたが、どうでしょうか。

○山田指導担当係長 やはり、途中で続かなくなってしまうということも、場合によってはありますが、豊明高等養護学校自体が、卒後支援という形で、卒業後も数年は企業と連携しながら様子を見に行ったりしているのですが、若干、離職あるいは転職という状況は見られます。

ただ、離職率自体は、ほかの道立の特別支援学校と比べて、著しく豊明が高いということはないと認識しております。

○設楽委員 就労がうまく続くためには、特に、発達障がいの場合はジョブコーチが行って、かなり身勝手な対人関係もあるけれども、そのあたりを調整し

ていくことが必要だというふうに言われているのですが、そのあたりはハローワークなどと連携してやっているのでしょうか。

○山田指導担当係長 年々、ハローワークももちろんですけども、センターなどとの連携は進んでいます。

○山中委員長 ほかにいかがですか。

○西村委員 豊明高等養護学校の全体の倍率はどうですか。

○山田指導担当係長 正確な数字まではお答えできないのですが、年度、年度によって、募集人員に対する志願者の状況は変わっていきまして、今年度の春に入学した生徒につきましては、募集定員を満たなかったということです。ただ、一方で、一昨年は、かなり募集定員を上回ったということで、その年度の状況によっても変わります。

○西村委員 余り倍率が高いようであれば、間口を変えるのではなくて、1間口増やしてはどうかなとも思ったのですが、その必要はないということですか。

○山田指導担当係長 全体として、間口自体は、北海道教育委員会が、豊明だけではなくて、道立高の状況や、志願者の状況などを見ながら設定するものがございます。札幌市単独で考えるものではないのですが、その年によって、札幌市の豊明養護学校も臨時に間口をふやしたこともございます。

○臼井委員 応募状況のことですけれども、想像するに、前年はすごく競争率が高く、進路指導のところで、少し厳しく見積もって、翌年は競争率が下がる可能性があると思うのですが、実態としては、希望の札幌地区で行けない方も多いため、その場合には、2次募集等で定員を充当するような試みはしておるのでしょうか。

○山田指導担当係長 2次募集につきましては、当初の募集定員に満たなかった場合に行っております。豊明につきましても、今年度は募集人員を割りましたので、その分については2次募集という形をさせていただいたのですが、2次募集で入ってきたお子さんは、今年については、残念ながら、おりませんでした。

○山中委員長 そのほかいかがでしょうか。

では、私からお尋ねします。

この議題に関連して、地域偏在のことでいろいろ議論がされていまして、議会等でも問題になっているようですが、それとこれとはどう関わってきますか。

○学校教育部長 地域偏在の部分は、道教委との関係もありますので、それはそれで進めているところです。

これにつきましては、先ほどの資料1にございますように、ここ近年、就労率のデータ等がございますが、前々から課題となっていた部分でございますので、早急に解決の方向を導きたいということで、今回、提案をさせていただいております。

ですから、地域偏在のことについては、別途、検討しながら進めているところであります。

○山中委員長 喫緊の課題ということで、流通・サービス科を設けたいのだということですが、抽象的に、今の経済状況からいって、こちらの方にシフトすることによって、就職状況もよくなるだろうという見込みはあるにしても、札幌市内に限らないかもしれませんが、この科を設けることによって、札幌市内に限らず、こういう企業が採用してくれそうだという具体的な見通しはあるのですか。

○山田指導担当係長 今回の豊明高等養護学校の就業の状況の中で、例えば、先ほどもご説明があったかと思うのですが、流通でいえば、引っ越しの業者での採用がふえている状況が現状の中であるものですから、こういった学科をつくることで、そういったところへの就労は期待できるものがあるかなと思います。

○山中委員長 例えば、この科をつくるということで、具体的な企業との接触あるいは調査をしているわけではないですね。

○山田指導担当係長 そこまで具体的な取り組みにはなっておりません。

○山中委員長 一般的な傾向からいって、こういう科が望まれるということで、つくっていかうということにとどまっているわけですね。

もし、実際にこの科をつくった場合は、具体的な就職先というか、働きかけをいろいろやっていかなければならないと思います。当然、その辺は検討されるのですね。

○**学校教育部長** 学科をつくったときに、その学科に対して、外部の方に講師として来てもらうということも当然想定されますので、その中では、企業との連携も図らなければならないと思います。

○**山中委員長** もう一点、先ほどのお話で、クリーニング科のビルクリーニングが、今、3学年のところは2間口になっていて、そちらの方でやってきた授業は、新しい科ができたらかっちに吸収されるのですか。

○**学校教育部長** 今回の流通・サービス科の中でかかわっていくと思います。

○**山田指導担当係長** 今まで取り組んできたことを生かしながら、この流通・サービス科の教育内容に取り入れていくことを考えています。

○**山中委員長** ビルクリーニングは、クリーニング科の方ではやらなくなるということですか。

○**山田指導担当係長** そこまでまだ具体的な検討はしていませんが、おおむねクリーニング科でやってきた成果という意味でいいますと、クリーニング科では今後はやらないで、流通・サービス科の中で発展させる形になるかと思いません。

○**山中委員長** そうすると、募集などの関係でも、クリーニング科の方ではそういうことはやらなくなりますということがわかるようにしないと、よくないのではないかと思います。

ほかに何かございますか。

○**西村委員** 新しい科の新設において必要なもの、それから人材に関する準備は、平成25年4月開校に間に合うということでしょうか。

○**学校教育部長** 大規模な施設ということは想定しておりませんが、いわゆる備品に対する準備はしていかなければならないだろうと思います。

それから、人材につきましては、先ほど申しましたように、外部の講師等の受け入れ等でやっていきたいと思っております。

○**山中委員長** ほかになければ、議案第1号につきましては、ご提案どおり、

流通・サービス科を新設することで承認してよろしゅうございましょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中委員長 では、原案を承認することにいたします。

なお、経済動向等も踏まえながら、せっかくこの科をつくったのに、あまり意味がなかったということにならないように、現実的な検討、対策をぜひきちんとやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは次に、報告第1号に入りますが、公開しない議案となりますので、傍聴者の方は退席をお願いいたします。

**以下 非公開**